

令和5年 **2**月の大阪森林便り

目次

- (1)  木造回帰 今こそ
- (2)  環境への思い 暮らしにも
- (3)  木材の適法性、確認義務 農水省、違反業者に罰則
- (4)  米木材先物 下落 ウッドショック前水準に

今月の木の話 シロアリに強い木材とは？

(1) 木造回帰 今こそ

*2021年には、これまで公共建築物のみ適用されていた国産材の利用を促す木材利用促進法が改正され、住宅を含む建築物一般が対象となりました。

*住宅の耐震性は2000年を境に事実上、地盤調査と必要な改良が義務付けられました。

*どんな構造でも耐震等級1であれば性能は変わりません。

*住宅の寿命は60年と言われますが、その根拠は取り壊した住宅の平均築年数から割り出した数字。

*現在の住宅性能で適切な点検メンテナンスをすれば、100年は持ちます。

(2023年1月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 環境への思い 暮らしにも

☆木材は耐火・防火性に優れた建材

*木は炎に触れると表面が炭化して層となり、中心に熱が伝わらない。

*一定の温度で溶けてしまう鉄骨よりも、構造を長く維持できる。

☆断熱性でも有利

*熱伝導性が低い性質

*木は二酸化炭素(CO₂)を吸収して育ち、燃やされるまで保有する炭素貯蔵効果。

*国産木材なら、輸送によるCO₂排出量も抑えられます。

人にもやさしい木造建築

*木には衝撃を吸収する柔らかさがあり、高齢者施設で怪我のリスクを下げるだけでなく、立ち仕事となる介護スタッフの疲れも軽減します。

*木が含む成分のフィトンチッドの効果などにより、身体・精神面の健康にも寄与。(2023年1月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 木材の適法性、確認義務 農水省、違反業者に罰則

- *農林水産省は、違法に伐採された木材の規制を強化。
- *輸入や製材にかかわる業者に法令順守の確認を罰則付きで義務付ける方針。
- *違法伐採が少ないとされる国産材の利用に弾みをつける狙いも。
- *現行のクリーンウッド法は、業者に木材の合法性を仕入先からの証明書などで確かめるよう求めています。
- *2025年度から施行する想定。

(2023年1月11日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(4) 米木材先物 下落 ウッドショック前水準に 金利上昇で住宅需要低迷

- *米国の空刺し価格が下落。
- *先物価格は2年8か月ぶり安値圏で推移。
- *「ウッドショック」以前の水準に戻りました。
- *住宅ローン金利の上昇で住宅需要が落ちているため。
- *2020年5月以来の安値圏で推移。
- *2022年3月から下がり始め、2021年5月のピーク時より8割安。
- *木材先物は今後も軟調な展開が続くそう。
- 日本の調達価格も下落 カナダ産、荷余り感強く**
- *2023年1~3月期の日本向け価格は、2022年10~12月期に比べ14%下落。
- *3四半期連続の値下がり。
- *底値に近いとの見方も。
- *カナダの針葉樹製材の輸出先は米国が主力。
- *相場が弱含んでいるため、北米で減産が相次いでいます。
- *供給が減り、需給が引き締まりつつあります。

(2023年1月18日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



今月の木の話 シロアリに強い木材とは？

- * 日本に生息するシロアリは、約 20 種。
- * 多くのシロアリは森林中の倒木や枯れ枝、落ち葉などを餌としています。
- * 木材以外にもプラスチック、合成ゴム、発泡スチロール、鉛などの柔らかい金属、レンガやコンクリートまで被害を与えることもあります。
- * 日本国内では常にシロアリの被害が及ぶ可能性があります。
- * シロアリによる住宅部材の被害を食い止める基本方法は、地中から住宅床下へのシロアリの侵入を防ぐことです。
- * ヒバやヒノキに含まれる化学成分はシロアリに効果があります。
- * 木材の香り成分は人を快適にさせる効果がある一方、シロアリにとっては命を危うくします。

(木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ 100 問より抜粋引用)

